

霜月十六日

賀州四郡

鱒坂備中守殿

吉江喜四郎殿

河田豊前守殿

〔下間頼純は、この時を以て七里頼周と鱒木頼信等との軋轢を和解せしめん爲に加賀に下りしなり。頼信居る所の松任出城は、成部落の小字として今その名を存せり。〕

十二月十九日。上杉謙信、越中勝興寺に、七尾城攻撃の形勢を報ず。

一五七八

【北徴遺文】

就至當國進發、態預音問祝着候。定而可有其聞得候。當州悉屬本意、七尾一城ニ取成候。城中逐日無力候條、落居不可有疑候歟。於時宜者可御心易候。猶各可申届候。恐々謹言。

極月十九日

謙信 在判

勝興寺

〔寸錦雜錄所載の文は少異あり。〕

十二月廿四日。鹿島郡石動山城の直江景綱等、上杉謙信に、軍事に關し忠誠を盡くすべき誓書を納る。

【歴代古案】

一五七九

一、上口無二被懸御心、殊當國能州被思召詰上者、此人數一騎一人無闕詰置、御誼次第可走廻候。此内御軍役候者、涯分召寄可申事。
一、増人數之義、是も御誼次第召寄、來從正月十日之内御用ニ罷立様ニ可申付事。付、御後闈覺悟、表裏不存、不惜身命、是非共御誼次第可走回事。

一、御普請并武前ニ而走廻候儀、御見除立見無之、不存如在大小事共ニ可走廻事。付、無道狼藉、又越中・加賀者不及申、當國も御手ニ付候郡郷濫妨仕間敷事。若此旨於僞申者略之

天正四年十二月廿四日

山吉 米房丸

天正五年 丁丑 皇紀二二三七

二月十日。越中の神保氏張、上杉謙信の臣吉江資堅に、謙信の加賀出馬に當り協力すべきことを報ず。

【直海文書】

一五八〇

御書拜見候。加州未落居付而、被進御馬之由、尤奉存候。手前之義、分際相當嗜、不可存油斷候。此等之趣可預御披露候。恐々謹言。

二月十日

神保安藝守 張 在判

吉江喜四郎殿

〔吉江喜四郎は前諱資堅、天正五年十一月十六日附の文書に至りて信景と署せらるゝを見る。この時その何れなりやを詳かにせず。〕

三月七日。假掲

【中居山王社文書】 鳳至郡

一五八一

今度於新崎一戰追討之處、越後猛勢早速致敗落事、偏

〔上杉年譜にいふ。天正四年冬十月中旬能州石動城を經構在て、直江大和守景綱を城主に命じ給ひ云々。是は定て信長と御手遣あらん爲なるべしと評議す。同年冬十二月石動城に指置れたる直江大和守を始め、他日の軍事に付連署を呈上すと。こゝに石動城といふものは石動山に在りしなるべし。〕

吉江喜四郎 資堅
河田對馬守 吉久
直江大和守 景綱
舟見宮内大輔代 杉原彌左衛門 盛綱
舟見代 柳新右衛門